

MO-YA-CO アートプロジェクト 2011
展覧会の記録



to be



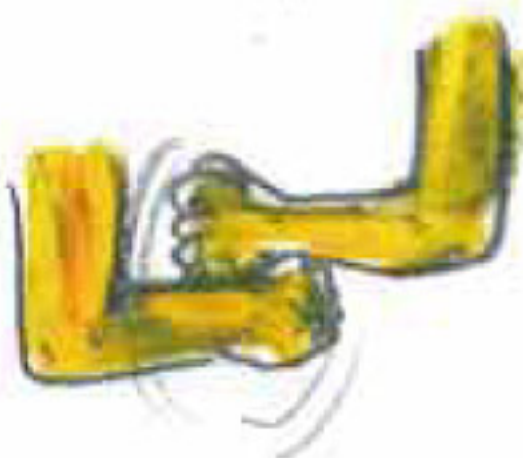
11°/11°-

or

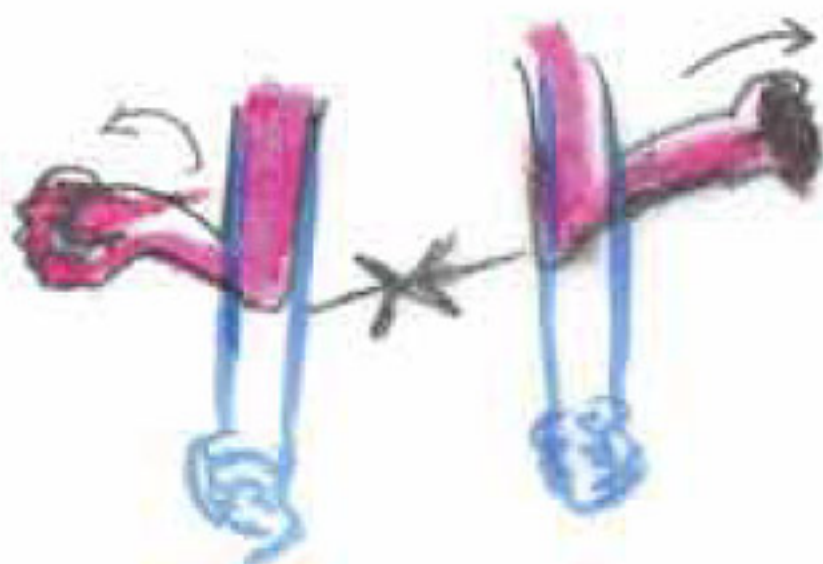
Not to be



2, 2-



も-や-



二

> x2

前、頭上、後





“みんな、

お母さんになりたいのです。”

からやかなエプロンをみんなつけて、

お母さんになるのよ。

MO-YA-CO アートプロジェクト 2011

MO-YA-CO 展覧会 2012 年 4 月 21 日（金）-4 月 30 日（祝）

主催 NPO 法人ポパイ、文化のみち榎木館、NPO 法人榎木倶楽部

後援 愛知県、名古屋市、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会

会場 文化のみち榎木館

協力 アトリエ裸虫、社会福祉法人無門福祉会青い空、
社会福祉法人愛知玉葉会藤花荘、まつさかチャレンジドプレイス希望の園



MO-YA-ICO 展覧会を幻にしないために

遅めの桜がきれいに散り、春が名古屋を通過しようとしているとき、榎木館で始まった『MO-YA-ICO 展覧会』。名古屋市北区にある障がい者の生活介護事業所オリーブで半年間にわたって取り組んだ汗と笑いの結晶。アーティストの北山美那子（みいな）をはじめ、普段は接点のなかった関係者が毎度やってきて、みんなで森を歩いたり、泥んこになったり、野菜の山によじ登り、全く新しい体験を積み重ねた半年間だった。

その集大成となる展覧会の会場は、開催前日まで関係者はもちろん、ボランティアの手を借り準備が行われ、手づくりの、それでも本当に楽しい空間に仕上がった。初日の北山美那子によるオープニング・パフォーマンスでは、それが確かに人の心を捉え、開放し、再び腹の中へストンと落ちるのを感じた。「たまらない」何かを抱えている人々が、アートに触れることで、少しでも満たされていくことが十分に期待できそうな、印象的なオープニングのシーンだった。

文化的な建物である榎木館は、それだけで人々を魅了するが、今回そこに堂々と敷かれた泥んこの絨毯、ぶら下がるポップな紙、異臭を放つ野菜のスープ、奥へと足を運べば色とりどりの絵画、強大な竜、不気味なキャラクターが出迎え、木陰からは動物たちが顔をのぞかせた。ふと立ち止まり、それらの作品を鑑賞する来場者たちを、榎木館は包み込み、ずっと昔からそうであったかのように、人々を交流させた。

雨の日があり、初夏のような陽気があり、蚊が湧き、庭園の草木が日に日に成長した。たった数日の出来事で、ハッピーは無数に訪れた。幻じゃなかったんだよと、改めて読み返す。やっぱり、ハッピーと感謝で一杯だ。

MO 法人ポパイ・理事長／山口未樹



「MO-YA-ICO アートプロジェクト 2011 オリーブ」

名古屋市北区にある生活介護事業所「オリーブ」にて、2011年10月から2012年3月までの半年間、「お母さんになろう」をテーマとしたワークショップをおこないました。

アーティスト北山美那子とカメラマン末松文は、月に2回オリーブに通い、オリーブのメンバーとコミュニケーションを深めながら様々なワークショップを展開していきました。

毎回、大掛かりな準備と利用者の大移動を経てワークショップがスタート。

最初は利用者（障がいを持つ人）にもスタッフにも戸惑いが見受けられましたが、楽しそうな雰囲気の中で演出に次第に心がほぐれ、徐々に輪に加わる人が増えてきました。

特に利用者の表情に笑顔が多く見られたことは、芸術的な作品を作るといふ課題に向き合うばかりでは生まれない、純粋に楽しみながら主体者となることを実現したよい機会になったと思われます。誰かに教育的に指導されるのではなく、自発的に参加し、絵を描いたり、飛び跳ねたりする姿はとても印象的でした。

展覧会ではそれらの記録を写真とインスタレーションで紹介しました。



オープニング パフォーマンス



北山美那子によるパフォーマンス
「あなたがたは知らない」
ウサギの耳をつけた北山美那子が登場し
彼女が考案した「MO-YA-CO 体操」を披露
演劇的な要素を取り込み、来場者を巻き込む
形でパフォーマンスが次々に展開され、
観客を魅了しました。



ワークショップ
「つづきの絵をかこう」



榎木館の中庭に広げられた長い紙。
そこには既に絵が描かれています。
参加者はクレヨンやパステルを受け取り、
他の人が描いた絵に自由に線や色を付け
加えていきます。
大人も子どもも純粋に描くことを
楽しんでいました。



4月29(土)、30日(日) 13:00～

森のさんぽ

～みんなお母さんになりたいのです～



2011年10月。
MO-YA-COアートプロジェクトは
森から始まりました。
樹々の幹に巻き付けられたエプロン、
森の奥へ続く細い道。
草の匂い、風の音。
ここから始まる「新しいこと」に
みんなわくわくしていました。



森の入り口に到着したオリーブのメンバーたち。「はい、みなさん、ここは森のおうちですよ。玄関で靴を脱いね！」アーティスト／北山美那子（ミーナ）が声をかけ、みんな戸惑いながらも裸足になります。

裸足で歩くことの心地よさ、まずはこれが新しい体験でした。この日のルールは、エプロンを着けた人が「お母さん」になり、他のみんなは、その「お母さん」の仕草や歩き方を真似る、ということ。言ってみれば、大きな人たちのお母さんごっこです。

・・・「お母さん」が歩いたら、みんな続いて歩く。
 ・・・「お母さん」が寝転んだら、みんな地面にごろんと寝そべる。
 ・・・「お母さん」が空を見上げたら、みんな立ち止まって遠くを眺める。

時には、「お母さん」から説教を受けることもあったり。そんな単純なことが実に楽しいのです。

初めは訳のわからなかったメンバーも徐々に「お母さん」になること、お母さんと同じ仕草をすることを全身で楽しんでいました。普段は、お世話されることが多いメンバーたち。

この日は自分がお母さんになって、いつもと違う自分との出会いがあったのではないかと思います。

*

会場では襖部分に白い布を取り付けて「森のさんぽ」の画像をプロジェクションし、訪れた方を出迎えました。

布はぴっちり閉じるのではなく、中央部分に隙間を作つてくぐり抜けられるような仕組みとし、映像の中から森へ出入りできるようなイメージを演出しました。

期間中、映像を自分の洋服に映したり布を何度もくぐり抜けて楽しむ子どもたちの姿も見られました。

足あとを
記録しよう



さわやかな青空が広がる秋の日。

2回目のワークショップ会場は公園です。

広場に準備されたのは大きな白い布、
つるつるの粘土、ぐちゃぐちゃの泥、
緑やピンク色の小麦粉、カボチャの煮物。

さて何が始まるのか・・・

またしてもメンバーはそわそわ。

テーマは『自分の足あとをつけよう』。
いつも車椅子に乗っている人もそうで
ない人も、みんな裸足になって。

「お母さん」のエプロンを着ければ、
身体も心もふわりと自由になるのです。

おひさまの下で、縮こまった身体とこ
ころを開放して、思い切り泥遊び。

広場は大きな舞台、そこにいるみんな
は全員がアーティスト。



すべらかな粘土を踏みしめて
ダンス・ダンス・ダンス！
色のついた小麦粉を指につけて、
思うままにドロ잉。
湿った泥を投げつけたり、足
でなぞったり、手触りを楽し
んだり。そして最後はまたダ
ンス！メンバーそれぞれが、
自分のできる方法で「表現」
を試みました。

出来上がった布を広げてみる
と、それは即興で描かれた絵
画作品のように見え、誇らし
げに輝いていました。

*

榎木館の和室一面、畳に敷い
たのは「足あとを記録しよう」
で作成した布作品です。

泥の痕跡をちくちくと刺繍で
縁取りし、かわいらしい色合
いとなりました。

天井からぶら下がっているの
も同じ布作品を北山美那子が
オブジェに仕立てたもの。
ブラブラと揺れる不可思議な
形のオブジェは子ども達にも
人気でした。



洗濯物干し式 お絵描き



手を動かすことでわかること。
色に触れること、ここを見つめること。

「洗濯物干し式お絵描き」は、
私たちにいろんなことを教えてくれました。

「次のワークショップはみんなで絵を描きます！」と
ミナが言った時、

こんなスタイルになることを誰が想像できたでしょうか。

いつもメンバーが作業をしている部屋に張り巡らされた
赤いテープ。

そこに吊るされたワラ半紙は、ひらひらと風になびく
白い洗濯物のよう。

そうです、これはまさに『洗濯物干し式お絵描き』！
お母さんが洗濯した洋服に絵を描いたらきつと叱られるけど、
ミナのワークショップでは思い切り描けます！

始まる前から筆を持ってニコニコしながらスタンバイして
いるあやちゃんの姿も印象的でした。

中でも感動的な姿を見せてくれたのは、松尾さん。
事故で脳にダメージを受けて言語と手足の機能を失った彼は、
いつも車椅子にじっと座っています。

が、この時は自分のちからで筆を持ち、
ぐいっと縮こまった腕を天高く伸ばし、
筆を振り上げて絵を描き始めたのです。

・・・それは本当に奇跡のような出来事でした。



和室の一角に、ワークショップで行った「洗濯物干し式お絵描き」と同じ空間を再現しました。
 展示した絵や写真作品は、車椅子の方が下から見上げて鑑賞できる高さに設置しました。
 赤いテープと色鮮やかな作品は仄暗い和室を一変させ、新しい息吹を感じさせるような展示となりました。



あたたかい食事
スープをつくろう



少し肌寒さを感じるようになった十一月。

この日のワークショップのテーマは、「スープをつくること」。
誰かのために温かい食事を作るのは、「お母さんになる」
ための大切な仕事です。

でも、ミーナのワークショップではスープを作るのも
簡単にはいきません。

なんと野菜を収穫するところから始めるのです！



部屋に出現したのは、秋の畑を思わせる大きな山。

所々に野菜が配られています。

その存在感に驚きつつ、いざ収穫！

山に登って新鮮な野菜を手に取り、満足げなメンバーたち。

そのあと、野菜を使っていよいよ料理開始。

それぞれが新聞紙で作った自慢のコック帽をかぶったら、

気分は立派なシェフ。

葉っぱをちぎったりスパイスをねじ込んだりと、

自由に手を動かしました。

この作業が無条件に楽しく、みんな夢中になっていました。

スープづくりに使った野菜は生け花のように展示し、
おいしいスープが出来がるまでを感じてもらおう空間としました



屏風や額縁もオリーブのメンバー達の作品



会場には、スープを作ったシェフ達の姿（写真作品）
を掛け軸や額縁で装飾して床の間や鴨居の上に展示しました。



そして、すべての材料

（リンゴも丸ごと入っていました！）

をお鍋にいれて

火にかけて、コトコト煮込むこと数十分。

この時、ずっとお鍋の側で

火加減を調整してくれたのは石原さん。

彼のおかげで野菜の旨味がじんわり

抽出された、オリジナルスープが

出来上がりました！

スープは滋味深く

身体に染み込むような味わいで、

こころもぽつとあたたかくなりました

何よりもみんなで一緒にいただくのが

一番のごちそうでした。



MO-YA-CO 作品展示



障がいを持つ人が生み出すアートには計り知れない魅力があります。繊細で不安定とされる人達から生み出される作品が、自由で開放的でエネルギーに満ちているのは不思議なものです。彼らの感性は、私たちが本来持っている自由な発想を刺激すると共に、新しい価値観を示してくれます。彼らの作品に触れ、想像を広げること…それは現代を生きる私たちにこそ必要なことではないかと考えます。

今回は愛知県内と三重県の4つの施設に協力して頂き、MOYACO 展覧会として作品を展示しました。

障害を持つ人々アーティストの純粋な思いが表現された作品は、どれも観る人の心を揺さぶり、何かを問いかけられているように感じられました。

◎参加施設

アトリエ裸虫 (名古屋)

社会福祉法人無門福祉会 青い空 (豊田市)

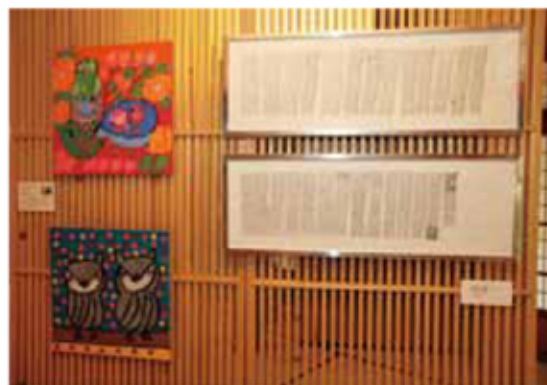
社会福祉法人愛知玉葉会 藤花荘 (岡崎市)

まつさかチャレンジプロジェクト希望の園 (松阪市)





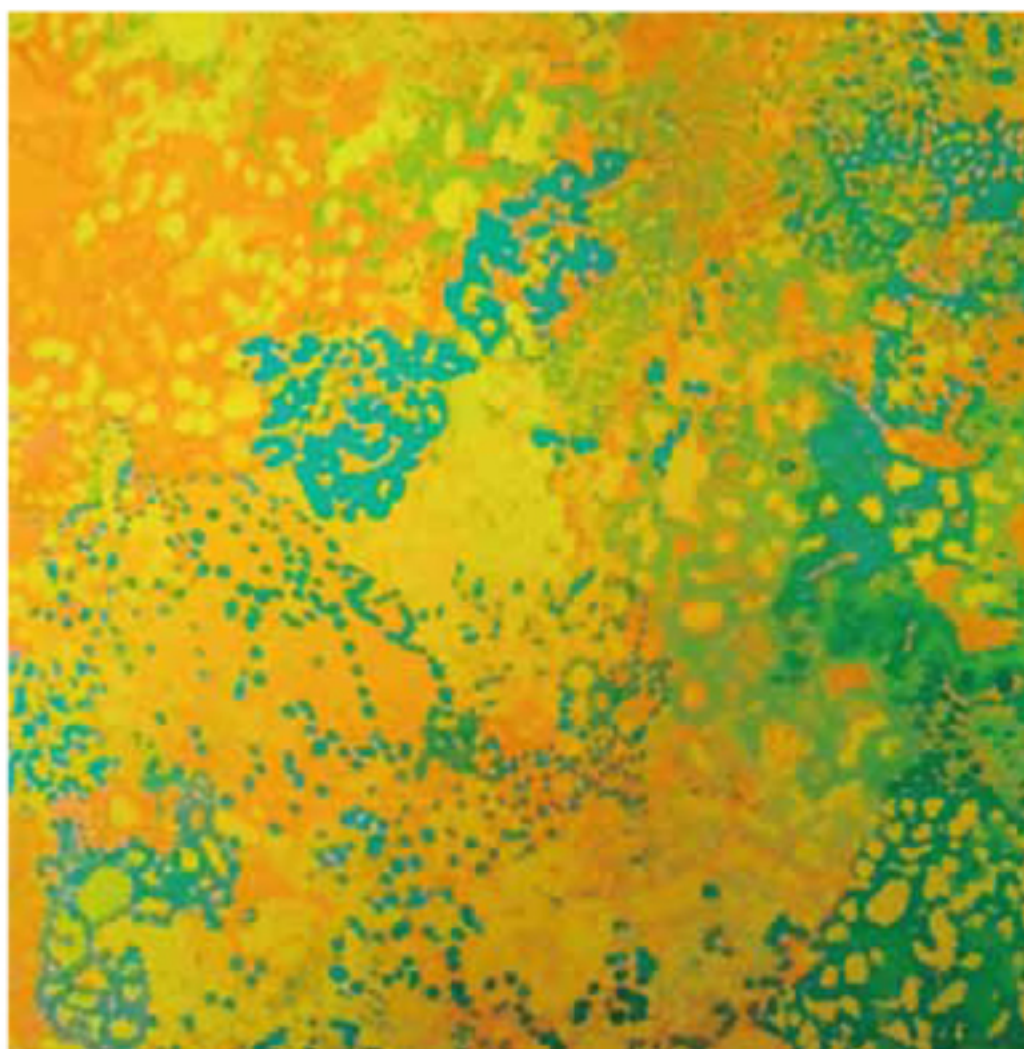
ティータイム
伊奈久生（藤花荘）



心霊写真シリーズ
石川文治（アトリエ裸虫）



無題
加藤八重子（藤花莊）



無題
加藤八重子（藤花莊）

無題
原田豊（藤花莊）





HOO!HEY!
岡部志士（希望の園）



自由なカモメ
ほんままい（希望の園）



リカルド船長が戻ったぞ
濱口新平（希望の園）



うさぎの王
川上建次（希望の園）



アニマル
小河勝太郎(藤花荘)



名古屋市営地下鉄
高橋真二(青い空)



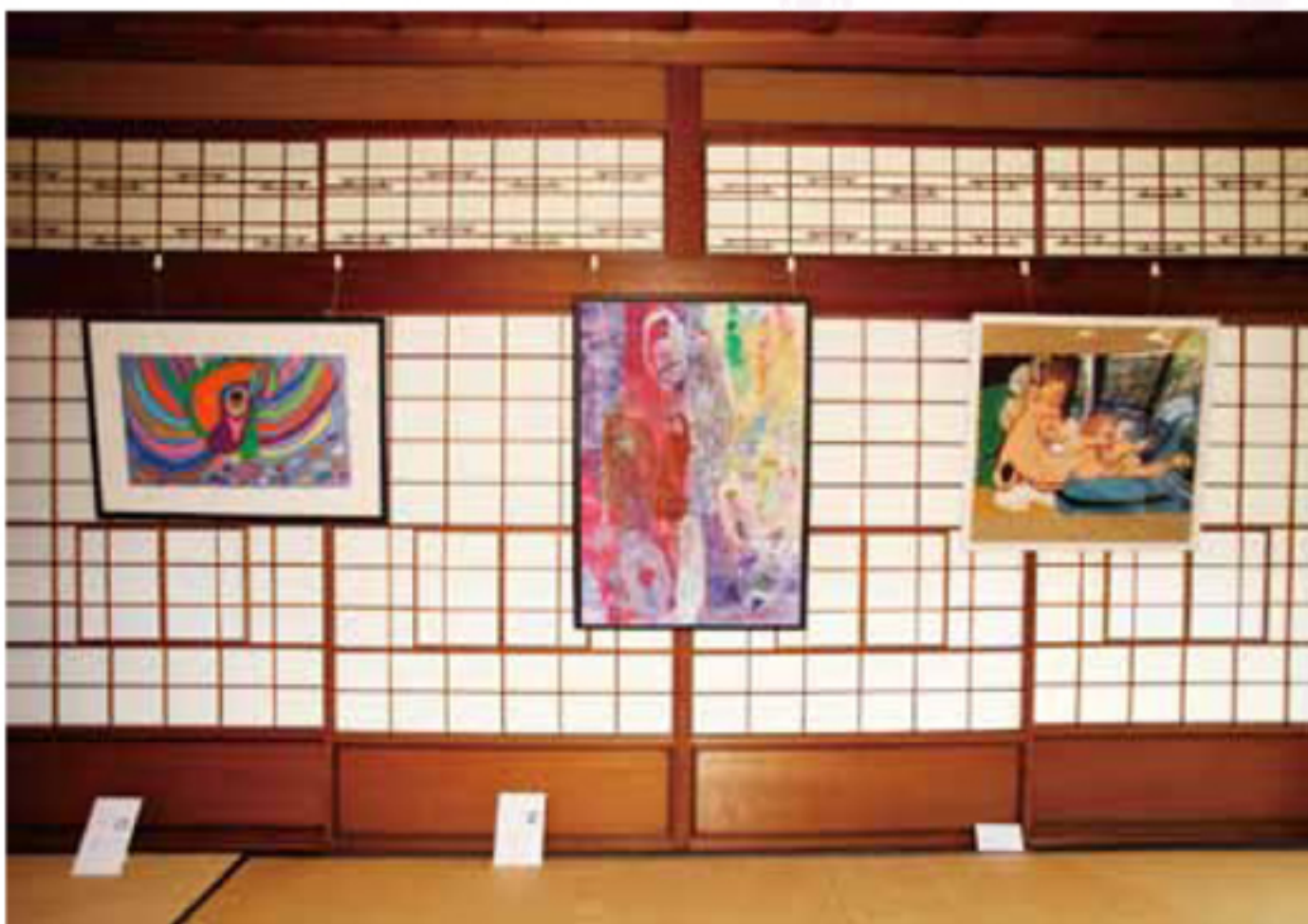
みんな宇宙人
早川拓馬(希望の園)



龍(襖絵)
森慎吾(藤花荘)

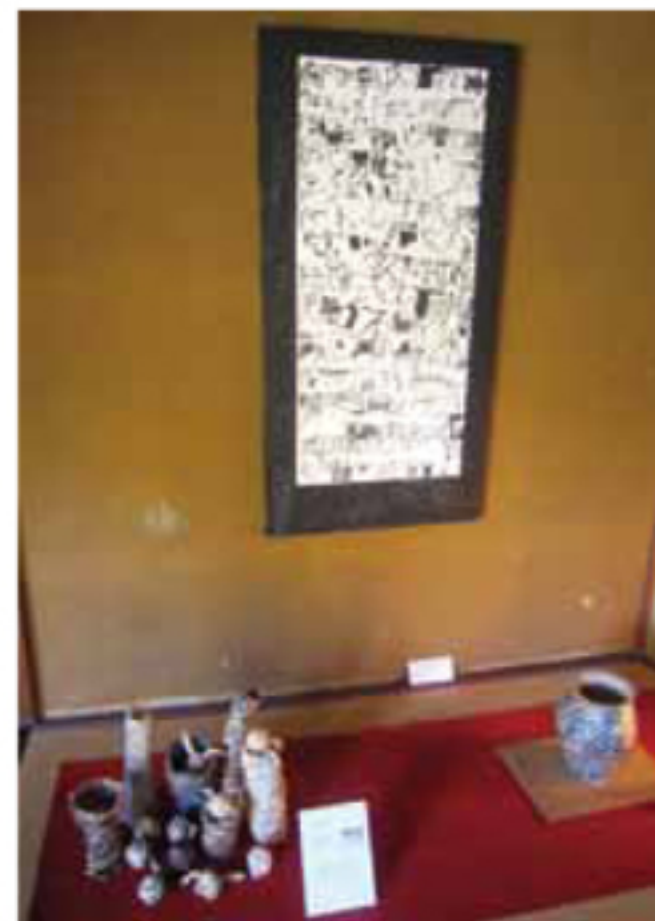


アオ イカリ
片山リサ(青い空)



展示風景

檜木館の和の空間に置かれた
作品たちはとても嬉しそうでした。



MO-YA-CO 座談会



展覧会の最終日30日（祝）には、展覧会の参加施設のスタッフ皆さんと、福祉＋アートに関わる方々による座談会を開催しました。障がい者とアートをとり巻く現状や取組みについて、活発な意見が交わされました。

パネリスト…江原亮、曾我部哲也、塚原礼美、
村林真哉、岡田哲、中村崇、山口未樹、

【MO-YA-CO 展覧会】

主催 NPO 法人ポパイ、文化のみち榎木館、NPO 法人榎木倶楽部
後援 愛知県、名古屋市、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会
会場 文化のみち榎木館

・作品展示協力

＜アトリエ裸虫＞ <http://mushi36.org/>

太田清美（蟲36スタッフ）、曾我部哲也（中京大学情報理工学部講師・蟲36スタッフ）石川文治、マササ軍曹

＜社会福祉法人無門福祉会 青い空＞ <http://www.mumon-fukushi.net/>

塚原礼実、若田友樹（生活支援員）荒木秀次、片山リサ、高橋真二、長尾英樹、橋本真澄、原田豊、三輪和彦

＜社会福祉法人愛知玉葉会藤花荘＞<http://www.gyokuyokai.com/shisetsu/toukasou>

江原亮（陶芸指導員）安藤昇、伊奈久生、加藤八重子、小河勝太郎、森慎吾

＜まつさかチャレンジドブレイス希望の園＞ <http://www.kibounosono.info/>

村林真哉（園長）岡部志士、川上建次、濱口新平、早川拓馬、ほんままい、森 啓輔

アートプランニング：北山美那子

写真撮影：末松文

企画運営：office tre punte（亀山よう子、神森珠美、芝裕子）

チラシデザイン：bishop

協力：岡田哲、中村崇、Guenier Morvan、Hikaru

展示設営協力：加美秀樹、松原正明、間邊明子、伊藤美香（NPO 法人榎木倶楽部）

会場受付協力：名古屋芸術大学スペースデザインコース

生活介護事業所オリーブ

阿部和也、井上友宏、奥村昌弘、兒島品子、清水宏行、西野由里、長谷川貴大、小倉みどり、岩屋敦子、中島幸美、中島きぬ代、水野麻衣子、高橋由子、山下浩、柳晴美、鳥丸尚美、廣瀬美由紀、大熊由美、岸本薫、山口未樹

MO-YA-CO アートプロジェクト 2011

MO-YA-CO 展覧会～みんなお母さんになりたいのです～

記録誌デザイン：加藤千恵、今井麻友美、高浜利奈（名古屋芸術大学スペースデザインコース）

写真：末松文、亀山よう子

編集：亀山よう子（office tre punte）

発行日：2012 年 11 月 12 日

発行：NPO 法人ポパイ

〒462-0056 愛知県名古屋市北区中丸町 1 丁目 1 番地中丸団地第 3 棟 103 号

TEL 052-913-2250

<http://www.mo-ya-co.info/>

価格：1,000 円（税込）

1 - 1 - 1 12.

